

9/27 「支援学校を応援するベルギー在住(1月から12月迄の1年間)の日本人妻」から、
次のような「ベルギー便り」(前任校から休業で現地に行った大阪の支援学校の先生からです。)が本校に送られてきました。やや長くなりますが、国際化の現代、興味のある人はクリックして頑張って読んで欲しいと思います。

○「支援学校を応援するベルギー在住)の日本人妻」ご本人の弁

6月から日本人学校で、ボランティアをさせていただいております。T・Tで授業に入り、指導が届きにくい場合などに、障がいのある児童を中心に支援しています。心身ともに健康で、元気にベルギー生活を送ることができています。ところで、「ベルギー便り」、一回も進んでなくて、本当に本当に、心から申し訳ございません!! 今日、まとめて、盛りだくさんで、送信させていただきます。

○1月・2月

朝から真っ暗で、朝9時になっても真っ暗でした。そんな中、出勤をするのは日本人ならとても大変です。日本では、自然と、太陽の光で目を覚ましていたことが痛感できました。

○3月

確か三月だったと思うんですが、急に平日にサマータイムが開始されるんです。一時間、時間が早くなりました。前からサマータイムが始まることを知っていたんですが、私は体がついていけませんでした。お腹が空く時間、寝る時間、体内時計がちゃんとできているんですね。私は語学学校に通っていて、そのサマータイムが始まった日にもかかわらず、授業に遅刻する人がいないことが不思議でした。ヨーロッパの人々は、このサマータイムに慣れているのではないかと思いました。

○4月

イースター休みがあります。春休みみたいなものです。通っていた語学学校もしばらく休みになりました。オランダ人に、イースターって何?って聞いてみました。すると、当然のごとく、ちゃんと丁寧に教えてくれました。キリストが関係していること。それはネットで調べても、全く同じ内容のことが知れます。

○5月

ベルギー人は、みんなすごく人情があります。楽観的で、見知らぬ人同士でも、人の温かさを感じさせられます。例えば……。スーパーマーケットでレジに並んでいるとき、手が滑って、購入前のワインを落として割ってしまった人がいたんですね。近くにいた人はどうしたかという、なんと、みんな笑っていたんです。「やっちゃったな!そういうこともあるよなー!笑」って感じです。日本だったら、見て見ぬ振りをするか、誰かが店員さんと呼ぶとか、ちょっと心配そうな目で見ると思うんですが、こちらは、周りが笑って、相手の心をフォローするような感じで、私はそんなベルギー人が心から素敵だなと感じました。

路面電車内では、ついうっかり降りたい駅へ降り損ねたら、他の誰かがそんな私に気がついて「運転手さん、ちょっと止めて~!!!」って叫んでくれました。本当に優しいです。

レジで並んでいるとき、前に並んでいるおじいさんが、後ろにいる私の順番を先に回して(譲って)くれました。理由は、おじいさんの購入するものが多く、逆に私のほうがかなり少ないので、時間を気にしてくれたんです。そのとき、おじいさんは私の背中をポンポンと優しく押して、フランス語でぶわーっとなんか話してて、たぶん、前にどうぞって伝えてくれました。日本でそんなことされたら、人によってはハラメントになりそうですが、私はそのとき全くそんな気持ちにはなりませんでした。こういう人情のある方が多い中で過ごす、日本は人同士のかかわり合いがイマイチだなと思いました。

ベルギーは外出すると、人と人との関わりがあって、決して他人ではない感じがして、本当に楽しいです。

○6月

語学学校ではいろいろな国の受講生がいます。あるポルトガル人が、私に「宗教は何?」と聞いてきました。「私は宗教は持ってないよ。日本人は多くの人が無宗教って答えると思うよ。」と言っても、全く信じてくれません。ブッタ?とか、しつこく聞かれるので、まあ葬式はそんな感じかもって答えました。宗教の話になると、少し大変です。「この人は誰でしょう?みんな知ってるはず。」と言われて、写真を見せられたのですが、それはポルトガルの有名な神父?牧師?さんで、私には到底答えることができませんでした。

テロについてです。

残念なことに、ヨーロッパではテロがよく起こります。特にラマダンの時期です。今年のベルギーでも、腰に爆弾をつけて、爆発しようとした所を兵隊さん(警察?)にやっつけられて、結局小規模で終わったテロがありました。そんなことがあって、いったいベルギー人はどんな反応なのかととっても気になったので、少しサーチしてみました。フランス語の先生に聞いてみました。「ベルギーの人達はテロに屈しないというか、対抗する気持ち

があります。そして、テロが起こっても、あまり気をつけることはありません。大きなテロがブリュッセル空港であったときは、さすがに次の日は、電車が止まったりしました。でも、今回のレベルでは、運行を止めることはしないし、学校も休みにはしない。あまり、気にしていない。」実際、電車を利用する人は、私が乗っているときに思いましたが、いつもとさほど変わりなかったと思います。テロがあった次の日、休みにしたのは日本人学校だけだったようです。私たち駐在者は、大使館からベルギーの情報を時々メールで知らされます。そのメールには、なるべく公共交通機関を使わないようにしてください、とありました。そして、ベルギーに長く住む日本人の方にも、テロについて聞きましたが、それでもやはり、ベルギー人は「またか。」と思って、さほど気にしていないと言っていました。いつもベルギーのメインの地下鉄の駅には、ソルジャー（大きな銃を持った、迷彩柄の服を着た兵隊さん）が二人以上で立っています。

〇7月

こちらの交通ルールは非常に厳しくて、特に速度違反と、駐車違反は罰金がすごいです。速度1キロオーバーでもダメらしいです。走行中に、車の後ろからナンバープレートの写真を撮られたりして、後日家に速度違反の通知がきます。国によって罰金の金額が違います。オランダは特に厳しいです。ちょっとの時間（15分とか）でも指定された所以外に停めると、はい罰金。意外と、ちゃんと見回りにきている人がいます。国によって、ルールを知ることが大切ですね。

パリについて少し触れておきます。

最近のパリの物乞いの傾向が少し変わってきているようです。なんと、物乞いではないのに、物乞いのふりをしている人がいるんだとか。パリに住む日本人とお話して、それを聞きました。家族（父、母、子どもの三人）で道に座っていて、夜になったら携帯で迎え呼んで、車に乗って家に帰るんだそうです。物乞いなのに、携帯電話を持っていることや、家に帰るとかありえないですよ。

〇8月

泥棒さんの忙しい時期になりました。

夏休みと、クリスマスの時期は、家の中は要注意です。みんな休みになれば、自転車を車に積んだりして、あるいはキャンピングカーで、遠出する人がたくさんいます。（私は自転車もキャンピングカーもないので普通車で移動です。）夜になれば点灯するライトをセットする、セキュリティーのステッカーを貼る、近所の人や警察官に留守にしている期間を知らせておく、郵便物を指定した日にまとめて届くようにしておく、銀行の貸金庫に貴重品を置かせてもらう、などなど様々な工夫があります。

こちらの休日期間は、現地の学校の生徒、学校の先生は約2ヶ月間もあります。長いすぎですよ！もちろん私たちはそんな長い休みはもらえませんが、夏はちょっとだけイタリアに行きました。イタリアは、英語が通じないことがよくありました。そういう面は、英語が苦手な日本人とよく似ているのかなと思います。しかし、イタリア人と日本人には大きな違いがあります。イタリア人は相手がイタリア語ができないとわかっていても、平気でイタリア語でがんがん話してきます。もちろん、観光地に行けば英語は通じますが、少し離れると、イタリア語がスタートされるんですよ。仕方がないので、レストランに行った時は「お会計をお願いします。」とか携帯で調べて、適当に発音して、無理矢理私が相手のイタリア語に合わせて会話をしました。すると、その甲斐あって、すごく喜んでくれました。一瞬、イタリア語の勉強をしようかとも思いました（笑）後で、言葉についてネットで調べると、人によっては、その国の言葉で話すことが当たり前だと考えるようです。例えば、英語を母国語とする人は、他の国に行っても、英語を当然のように使って話すケースがあるようですが、その人の心理としては『英語はみんなが話せて当然』と思っているかもしれないです。これって、よく考えてみると、少し失礼かもしれません。なぜなら、現地では英語が得意な人とそうでない人がいるからです。ベルギーだって、フランス語圏の人と、オランダ語圏の人では、明らかにオランダ語圏の人のほうが英語が得意なんです。それは、フランス語圏の人が悪いのではないと思います。教育環境や、言葉自体が英語に近いとか、そういうところに理由があるみたいなんです。だから、英語だけではなく、現地の言葉で話すということは、すごくすごく思いやりのある行為だと思います。私も知ってるフランス語はなるべく使うようにして、ベルギー生活を送っています。ベルギーでは、かなり拙い私のフランス語でも「ユーアー、グッドフレンチスピーカー！」とか嬉しいことを言ってくれます。ベルギー人、本当に素敵です。

〇9月

9月は、後日、写真付きでお送りいたします！もうすぐ、カーフリーサンデーがあるんです。終わったら様子をお伝えいたします。